

立命館 災害復興支援室 版瓦

かわらばん

【第28号】2015年8月24日発行

【告知】理工学部宗本准教授『ODENSE3号』の建設が始まります。

立命館大学理工学部宗本晋作研究室では、岩手県宮古市からの依頼を受け、宮古市田老地区の道の駅建設プロジェクトの一施設である産地直売所の建物を建設されることになりました。災害復興支援室では、ODENSE1号（宮古市重茂地区）、2号（同市鉾崎地区※2号は014年7月に区画整理により撤去）に続く建物「ODENSE3号（仮称）」の建設を通じて行なわれる災害復興支援活動を応援します。「ODENSE（おでんせ）」とは岩手の言葉で「いらっしやい」を意味します。

今回のプロジェクトには、地震や台風など自然災害の多いアジア地域に東日本大震災の教訓と立ち上がろうとしている東北の姿をこの事業を通じて海外に発信することが大切であると考え、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」の採択をうけ、ラオス国立大学建築学部7名、インドネシアイスラム大学学生3名も参加します。災害復興支援室は、この活動に後方支援べく、後方支援スタッフ派遣便33便（9月12日夜京都出発～9月20日朝京都到着）を実施し、8名の学生を派遣します。また、宗本晋作研究室学生12名の現地への旅費については、災害復興支援室の「夏期休暇中支援活動のための旅費支援制度」*1を利用し活動を行ない、総勢30名がODENSE3号の建設に取り組みます。

参加学生他等で自炊（食材の買出し、料理作りなど）を行ない、宿泊は男女別の大部屋で生活を共にして、言葉や宗教・文化の違いを超え、ODENSE3号完成にむけて力を合わせます。活動の様子についてはfacebook等をご覧ください。

【実施概要】

期間：2015年9月7日（月）～9月18日（金）

場所：岩手県宮古市田老地区平坦



完成イメージ
直径約10メートル 高さ約7メートル



ODENSE1号

*1）「夏期休暇中支援活動のための旅費支援制度」とは昨年より設けた制度で被災支援活動に行く学生（個人・サクル）の旅費（交通費、宿泊費）の一部を支援する制度です。昨年度夏期休暇中に62名が制度を利用して活動しました。詳しくは立命館災害復興支援室HPをご覧ください。

<http://www.ritsumeit.ac.jp/rs/20110311/basic/article/news.html/?id=381>

【告知】●ボランティアバス企画【第32便】後方支援スタッフ派遣について

立命館災害復興支援室では2011年12月より東日本大震災の被災地域に学生を派遣し、活動と交流を通じて震災の課題について学ぶことを目的としたボランティアバス企画

「後方支援スタッフ派遣プロジェクト」を継続的に実施しています。今回の第32便では、「避難指示解除準備区域」に指定されている福島県双葉郡楡葉町の住民のみなさんが4年6か月に及ぶ避難指示が9月5日午前0時を以って、避難解除となり帰町されることを受けて、一般社団法人ならはみらい様と共に、震災以降バラバラになった町内住民の地域コミュニティの再生を目指し活動します。楡葉町では9月5日という日が、今年だけではなく、先5年10年100年後も節目の日となると考え、より一層の復興へ向け新たなスタートを決意し、想いを新たにするとするため、「キャンドルナイト～あらたな一歩～」楡葉町復興祈念式典を開催されます

実施概要】

日 程：8/31夜出発～9/6朝関西着

活動場所：福島県いわき市、双葉郡楡葉町

派遣人数：15名＊教職員引率有

連携組織：一般社団法人ならはみらい

費 用：集合場所から現地までの往復交通費、宿泊費

（朝夕食つき）は立命館災害復興支援基金・復興+R基金で補助。移動中の食事と昼食（1回500円程度）、保険は各自負担

活動の様子についてはfacebook等をご覧ください。



ネパール大地震復興支援教職員募金のご報告とお礼

多くの皆さまから、被災地小学校建設への募金をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。募金活動（7/15～7/31）の結果をご報告いたします。

募金額は392,233円でした。お預かりした募金は8月7日プロジェクト大分ネパールに送金しました。現地の様子など改めてご報告させていただきます。被災地の一日も早い復旧をお祈りしますとともに、ご協力いただきました皆さまに心から厚くお礼申し上げます。

【活動報告】

■岩手県大船渡市碁石岸観光まつりへ課外自主活動団体が参加

5月4日（月）～5月5日（火）、岩手県大船渡市において開催された「碁石海岸観光まつり」に、復興応援・地域交流の一環として、ライフサイエンス研究会およびモダンジャズバレエ部が企画協力にかけつけました。ライフサイエンス研究会は、ステージにおいて科学実験ショーを行いました。日頃から積極的に地域交流活動を行っている団体で、屋外での実験は予想外のこともありましたが、両日とも子どもから大人まで幅広い年齢層の来場者から温かい拍手をいただきました。

モダンジャズバレエ部のステージではモダンバレエとジャズダンスをベースにいろいろなジャンルのダンスを取り入れたオリジナルのダンスを披露しました。ステージの中でダンスごとに衣装の変化も楽しめる華やかなステージは、会場中の注目を集めていました。参加した学生たちは大船渡のみなさまとのあたたかい交流を経験することで、これまで大船渡にかけつけた先輩方からのバトンをしっかり受け取り、大船渡の復興を応援する気持ちを新たにしました。

＜参加した学生のコメント＞

震災や津波の映像を見たり、大船渡で活躍されている立命館大学の先輩方にお話を聞かせていただきました。人は「何かないかなあ。面白くないなあ。」と思いがちだけれど、実は「何にもないこと」が、どれだけ幸せなことか！メディアで伝えられる機会が減ったが、「風化」させてはいけないと思いました。



大船渡市のゆるキャラと一緒に

■立命館大学サービスラーニングセンターによる

課外プログラム「大船渡・盛町七夕まつり サポートプロジェクト 2015」実施

「大船渡・盛町七夕まつりサポートプロジェクト」は、大船渡市盛町の商店街で開催されるお祭りを元気に盛り上げ、地域の方との交流を図り、大船渡市盛町の課題である少子化やお祭りの担い手の高齢化に対する取り組みなど、そこに住む人々の思いに触れ、復興支援、地域活性化の意味について考え、活動を通じて得られた体験や経験を日ごろ共に学ぶ大学の仲間やご家族に伝えることで、震災の記憶の風化を防ぎ、地域活性を考えるきっかけとなるよう、2012年より大船渡へ寄せていただいております。8月2日～9日にかけて27名が活動しました。明治大学、東京経済大学などの学生と一緒に伝統の竹飾りの備え付け作業なども手伝い、10Mの竹を抱えて運び、鮮やかなくす玉や吹き流しを取り付け、住民の方からは「昔に比べて人が減り、地元だけでは祭りの準備が大変でありがたい限りです」と感謝の言葉をいただきました。



■気仙沼・唐桑・鮎立ツリーハウス完成お披露目「賑わう会」開催

2015年8月7日、気仙沼市唐桑町鮎立（しびたち）にて、一般社団法人東北ツリーハウス観光協会主催による「ツリーハウス完成お披露目会」が開催されました。

13時から、東北ツリーハウス観光協会の糸井重里代表理事による開会の挨拶に続き、この間、パートナーとして、2014年6月より6回にわたる後方支援便を送り、ツリーハウスの制作を重ねてきた立命館災害復興支援室より塩崎賢明副室長と、建設にあたって多大なる調整と協力をいただいていた唐桑御殿つなかんの菅野一代さんから、感謝の言葉が重ねられました。



5箇所目となる鮎立のツリーハウスが、八幡神社及び浪切不動明王の隣にある山桜の大木に沿って建てられたことを受け、立命館アジア太平洋大学の卒業生で、津軽三味線奏者の鈴木利枝さんによる奉納演奏がとりおこなわれました。

この建設に関わってきた立命館大学生たちは夏期休暇中支援活動のための旅費支援制度を利用して参加、また立命館アジア太平洋大学の学生らも「復興+R基金」の補助を受けて参加しました。地元の子供たちに楽しんでもらえるように、クイズラリーを企画したり、屋台等のお手伝いをさせていただき、地元の方々と共に完成の喜びを分かち合うこととなりました。交流会では、鈴木利枝さんの演奏に合わせ参加者が歌を歌う場面もあり、再会と今後のさらなる交流を約束しあう機会となりました。



立命館宇治中学校・高等学校の生徒による取り組み

7月18日～20日、災害復興支援活動として福島を訪問した「Beyond福島×京都」（IM生を中心にしたフクシマ復興支援団体）の15名のメンバーは、南相馬市、福島市、そして原発被害のために浪江町から避難されている方々が暮らす本宮市の「高木公園応急仮設住宅」を訪問、最後に福島高校の生徒たちが結成しているBridge for Fukushimaのメンバーと交流し、「高校生が復興のために何ができるのか」に関して熱い議論を繰り広げました。

＜参加した生徒の声＞

私はこの三日間で震災の残した深い傷跡だけではなく、福島のみなさんの温かみを感じることができ、さらに直接福島に行くことで、いろんな体験談や、放射能についての新たな知識も学びました。

詳しくは<https://www.ujc.ritsumei.ac.jp/ujc/news/detail.php?eid=02093>をご覧ください。



編集後記

夏期休暇を利用して多くの学生たちが被災地で支援活動を行なっています。次号の瓦版でご報告させていただきます（ひ）

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。＜公式web <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>>